

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和6年9月30日現在

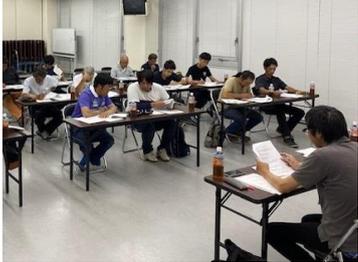
今月の重点活動

■小麦 令和7年産小麦栽培研修会（岐阜市・山県市）が開催される

9月12日、JAぎふアグリパークにおいて、岐阜市・山県市の小麦栽培を行う営農組織8組織（16名）と、JA職員が参加し、小麦栽培研修会を開催した。両地域ではこれまで小麦の播種前研修会は行われていなかったが、令和6年産の収量が伸び悩んだことから、生育及び栽培管理状況を振り返り、令和7年産小麦の安定生産と品質向上に繋げることを目的に、農林事務所の働きかけにより開催することとなった。

令和6年産小麦の生育は、前半は暖冬によって生育旺盛であったものの、春先からの低温により生育は停滞し、穂数の減少や遅れ穂の発生に繋がったことから、適期播種による穂数確保の重要性について説明を行った。また近年、小麦圃場において雑草が多発し、小麦の生育抑制や収穫時の作業性の低下が問題となっていることから、草種別の雑草対策について重点的な説明を行った。出席者からは土壌改良資材の使用方法や排水対策、病害虫防除対策について質問がなされるなど、小麦の収量・品質確保に対する高い関心が示された。

農林事務所は今後も生育及び病害虫発生状況調査を通じた定期的な情報提供により、高品質な小麦生産に向けた支援を行っていく。



【研修会の様子】

（地域支援第一係）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■花き フラワー・ブラボー・コンクールの岐阜地域地方審査会を開催

岐阜県は、学校環境の美化と児童・生徒らの豊かな情操教育へと繋げるため、昭和39（1964）年からフラワー・ブラボー・コンクール（学校花壇コンクール）活動に取り組んでいる。

このコンクールでは、県下6地域の地方審査会が優秀校を中央審査会に推薦するための地方審査を行い、中央審査会が各賞選出のための中央審査を行う流れとなっている。

農林事務所は、岐阜地域地方審査会（審査委員長：農林事務所長）を9月4日～6日の3日間、審査希望のあった5校を対象に審査会を開催し、花壇の生育及び管理状況、活動を通じた児童や生徒の自主性の発揮など情操教育への繋がり等について審査した。なお、審査は農業普及課、岐阜教育事務所学校支援課の職員が担当した。

今年は記録的な猛暑の影響で花壇管理が難しい中、各校の児童や生徒は、花の栽培や花壇管理について工夫を凝らすとともに、学校内だけでなく地域を巻き込んだ活動を行うなど、各校様々な取り組みが見られた。

農林事務所は、次世代の担い手育成や花の消費拡大に繋がるよう、引き続き本活動を支援していく。

（園芸産地支援第一係）



【花壇制作を説明する児童と審査員】

安いで身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 収穫作業は順調に進む

農林事務所管内では、お盆前から水稲の収穫が始まり、「あきたこまち」や「コシヒカリ」などに続いて「にじのきらめき」や「あさひの夢」の収穫が行われている。

これまでのところ、玄米の品質は登熟期間が高温で推移した影響を受け、全体的に白未熟米がやや多くなっており、例年に比べると品質が低下している。高温の影響を受けやすい「コシヒカリ」だけでなく、より高温に強い「にじのきらめき」にも影響が見られており、今年が大変な猛暑であったことが伺えた。しかしながら品質は良くないものの、収量は平年並みが見込まれている。

間もなく管内主力品種である「ハツシモ岐阜SL」の収穫が本格的に行われるが、記録的な高温により生育は平年よりやや早まっており、刈遅れがないよう適期収穫の励行を働きかけるなど、農林事務所では高品質な米生産への支援を継続して実施していく。

(地域支援第三係)



【収穫作業の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき 柿振興会 「早秋」・「太秋」目揃え会

柿振興会は9月27日、JAぎふ糸貫流通センターにおいて「早秋」・「太秋」の目揃え会を開催した。今年作では9月の残暑の影響を受けたものの2品種の果実肥大は順調に進み、「早秋」では平年並み、「太秋」では平年より良好となっている。なお、「早秋」が10月上旬、「太秋」が10月中旬からの出荷開始予定としている。

今回の目揃え会では、特に「早秋」で課題となっている早期軟化に対する注意喚起がなされた。「早秋」の早期軟化は収穫後2日程度で発生することが多く、流通中の軟化発生が出荷量のロスや価格低下を引き起こす要因となっている。この対策として、柿振興会では荷受け後2日間、選果場での保管を行ってから、選別出荷することとしている。このため、農林事務所からは、対策強化のため収穫時の着色について注意することを呼びかけた。

柿振興会は、これまで高品質の柿を出荷し市場、消費者の信頼を得ることで、柿ブランドを確立してきた。今後も農林事務所では生育状況や害虫発生状況等の情報提供を適期に行い、柿ブランド維持のための支援を行っていく。

(園芸産地支援第二係)



【目揃え会の様子】

■トマト 新規会員が加入！糸貫トマト振興会総会を開催

糸貫トマト振興会（構成員8戸）は9月12日、総会を開催した。当振興会は若い農業者が多く、岐阜県就農支援センター卒業者をはじめとする岐阜県方式ポット耕の栽培方式、ぎふ清流GAPの団体認証取得の取り組み等、活気あふれる活動を実施している。

総会では、事業実績及び事業計画等が提案され、すべてが承認された。また、全農及びJAぎふからの販売実績等の報告の他、農林事務所からは、病虫害防除、外国人材雇用、各種行事計画に関する情報提供を行った。

令和6年度は、就農支援センターを卒業した新規就農者1人が加わり、9戸での振興会活動となることから、更なる生産販売実績の向上が見込まれる。

農林事務所は関係機関と連携し、新規就農者の早期営農定着等、生産振興を支援していく。

（園芸産地支援第一係）



【総会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■野菜 JAぎふ南部野菜振興会への活動支援

JAぎふ南部経済センターは9月24日、南長森支店において南部野菜振興会秋冬野菜栽培研修会を開催した。

南部野菜振興会は、岐阜地域南部の園芸振興と農業経営の安定向上を目的に令和6年4月に設立され、岐阜市北長森・南長森・日野と岐南町の農業者50名が参加している。

今回の研修会は市街化区域で農業を営む生産者を繋ぎ、地産地消の実践による有利販売を進めることを目的に開催された。農林事務所は講師として、秋冬野菜栽培における病虫害防除、播種時の高温や乾燥対策、各種資材の利用方法について、事例を交えながら説明を行った。さらに、環境に配慮した農業の取り組み実践について、呼びかけを行った。

今後は、「玉レタス」や「甘とう美人」などの重点9品目について、周年的に生産できる新たな産地モデルの確立に向け、各地区研修会で講師を務めるなど、継続的な支援を行っていく。

（地域支援第一係）



【研修会の様子】